

「より良質で安心して利用できるおいしい水」を背景に 水需要の安定供給のため様々な質問を投げかける!!



総合企画水道常任委員会で発言する本間進議員

千葉県上下水道事業は、安定水源の確保や施設設備の推進を図るとともに、水質管理の充実に努め、安全でより良質なおいしい水を提供する事を目指しながら、環境保全に十分配慮した水づくりに努めています。

震災後の水道応急復旧工事、柏井浄水場西側高度浄水処理施設整備事業についての進捗状況を確認。

平成23年10月12日、9月定例県議会、総合企画水道常任委員会における質疑応答のなかで、私、本間は、次のような質問をしました。

震災の応急復旧工事の清算業務について①震災の応急復旧工事の清算業務はどのようになっているのか。②今回の震災ではかなりの漏水が発生したが、これらの復旧費用は国庫補助の対象になるのか。という問いに、水道局技術部給水課長が答弁されました。

①口径350ミリ以下の約千六百件の応急復旧工事については、千葉県水道管工事協同組合と平成22年度と平成23年度に分けて契約を行い、9月22日までに工事検査は完了しております。

清算金額は、約8億円となっており、支払い状況は7月末までに約7億円を支払っており、残りについては10月25日に支払う予定となっております。

②厚生労働省から、平成23年5月2日付で、水道施設等の応急復旧工事に加え、漏水の多発した地域の復旧工事に対し、国庫補助の対象となる旨通知がありました。

当局では補助申請用のチームをつくり資料の作成中であり、11月14日から5日間かけて災害査定を受ける予定です。と答弁されました。

この他にも、水道技術部計画課長に対して次のよう

な質問をしました。

①柏井浄水場西側施設高度浄水処理施設整備事業について、事業の内容はどのようなものか。

②事業実施の効果はどうか。

③事業実施のスケジュールはどうなっているか。これに対して、水道局技術部計画課長が答弁されました。

①現在稼働中の柏井浄水場西側施設(36万トン/日)は、原水中の有機物質や臭気物質対策として、多大な費用と労力をかけて、木下取水場での粉末活性炭注入を常態的に実施しています。今回の事業は、粉末活性炭注入作業をなくし、より安全な水を安定的に供給する事ができるオゾン処理と生物活性炭処理を組み合わせた処理施設を柏井浄水場内に追加導入するものです。

今後は、熟練した経験を有する職員の多くが退職を迎えることとなりますが、その対策としても、経験に基づき運転管理業務の要素が比較的少ない高度浄水処理施設を導入することが運転管理の安定化に有効であると考えています。

②平成17年度から3年間木下取水場において実験を行った結果①トリハロメタンやカビ臭物質等への対応②手賀沼放流や降雨による急激な水質変動への対応等について効果が確認されています。

③評価委員会からの意見を踏まえて、当局の対応方針を決定し公表・予算措置してまいります。

千葉県との約束違反か？

9月21日発生 台風15号の影響
羽田空港再拡張に伴い深夜早朝の飛行ルートにおいて9便が千葉市を通過。

9月定例県議会総合企画水道常任委員会のなかで総合企画部空港地域振興課長との質疑応答をご紹介します。

私、本間から、次のような質問をしました。

①羽田再拡張の問題で、千葉県においては、真夜中23時以降は、飛行機は飛ばさなくなっているが、それは本県と国交省との約束と聞いている。

ただし、今回の台風15号が日本列島を横断した9月21日23時15分頃、千葉市上空を何機も飛行したと聞いています。これは本県との約束を破ったことになりませんか。

当日の状況もありますが、台風15号の影響で、空の便に非常に大きな混乱が生じ、羽田空港においても強風のため離着陸を併せて400便以上が運休し、それ以外でも大きな遅れが生じた。このため、23時台は海上ルートとしなければならぬ時間帯だが、この処理能力を上回る17便が着陸せざるを得ない事態となり、このため、このうちの9便が千葉市を中心とする本県を通過することとなりました。この件につきましては、国交省からも報告を受けております。

再拡張に伴って、一番被害を被っているのは我が千葉市。しっかりとその辺の把握をしてもらいたいと強く要望をいたしました。

また、総合企画部国際課長には、

①ベトナムで国際協力をしているがどのようなものか。また、その成果は何か。という問いに対して、国際課長は、

現在県では、JICA(独立行政法人国際協力機構)の「草の根技術協力事業」を活用しながら、ベトナムのハノイにおいて国際協力活動を展開しております。具体的には、経済発展が著しいベトナムで、水環境の悪化が大変進んでおり、そのうちで、水環境の悪化が完成しているが運転管理のノウハウが欠けているというところで、ノウハウの提供や、処理場の人材育成を進めることを目的として、「水環境改善理解促進事業」を実施しています。事業の中で、本県からは専門職員を派遣し、相手側からは研修員として県内の

下水処理場等で受入指導を行っております。

平成19年度から平成21年度を第一期、平成22年度から今年度までを第二期として実施しており、今年度が最終年度となります。

活動の成果として、第一期(平成19年度から21年度)では、相手方であるハノイ市の下水排水公社が維持管理している3処理場について、いずれも運転マニユアルを作成して、自立した運転ができるようになりました。

ベトナム側からの強い要望により実施している第二期(平成22年度から23年度)におきましては、引き続き効果的な下水処理場の運転、水環境保護に向けた市民の意識啓発をすすめています。この中で、住民が参加する清掃活動などの新しい取り組みも初めて実施されるなど、活動全体としてベトナム側から大変喜ばれています。と、回答されました。

9月定例県議会における発議案38件の内21件が本会議において可決されました。そのいくつかをご紹介します。

- 発議案第2号**
庁舎等公共施設の耐震化及び安全対策に対して国の財政支援を求める意見書
 - 発議案第3号**
房総沖海溝型地震の観測・調査の実施と監視体制の構築及び迅速な津波情報の把握と通報システムの確立に関する意見書
 - 発議案第4号**
東京電力株式会社における損害賠償に係る対応を求める意見書
 - 発議案第5号**
東京電力株式会社による「原子力損害の判定等に係る中間指針」の確実な履行を求める意見書
- 上記以外で第6号、第7号、第8号、第9号、第15号、第16号、第17号、第20号、第23号、第24号、第25号、第27号、第28号、第29号、第34号、第37号、第38号、まで合計21発議案が可決しました。

千葉県の人口 621万6,289人

前回に比べ15万9,827人、2.6%の増加。
65歳以上の高齢者の割合は21.5%で、
15歳未満は13.0%。

地域	人口	増減率
千葉県	6,216,289人	2.6%
千葉市	961,749人	4.0%
千葉市中央区	199,364人	7.9%
千葉市花見川区	180,949人	▼0.4%
千葉市稲毛区	157,768人	5.4%
千葉市若葉区	151,585人	1.1%
千葉市緑区	121,921人	8.0%
千葉市美浜区	150,162人	3.1%

※増減率は前回(2005年)と比較して算出。